



# CTNK Communication

2022年  
(令和4年9月)  
第196号

## 田中電子研修、岩手で開催！

### 白河の関を越えたある夏の一日！



今年の夏の甲子園、優勝は仙台育英高校でした。ちょうど選手たちが地元仙台に帰ってきたのが八月二十三日でした。かつて東北と関東の境とされた福島県の「白河関跡」、ニューズで「白河の関を超えた」というのは東北に初めて真紅の大優勝旗を持ち帰ったということでした。

これは負けてもいられないということ。当社の人材教育課が、八月二十三日に一関で研修を開催しました。当社も「白河の関を超えた」と担当の本社・白川も意気込んでいました。

研修が始まりました。全体の研修の最初は、皆さん緊張しているのか返事も遠慮したりするのですが、今回はいつになく皆さん元氣よく挨拶をしていました。スタッフの方々同志は面識があるのかわかりませんが、全体的に和気あいあいという雰囲気でした。



研修が始まりました。全体の研修の最初は、皆さん緊張しているのか返事も遠慮したりするのですが、今回はいつになく皆さん元氣よく挨拶をしていました。スタッフの方々同志は面識があるのかわかりませんが、全体的に和気あいあいという雰囲気でした。

自己紹介では、自分の特技が「子育て」という方もいて会場を和ませてくれました。

休憩時間には、お互いにテキストを見て教え合ったりしていました。お辞儀の指導の時、あるスタッフがどうしてもお辞儀がうまくできず、ちょうどブルース・リーの映画の中で、「お辞儀の時は相手の顔を見ろ！」と弟子に教えていたシーンのような状況で、自分なりに迷走していました。しかし、練習を重ねていくうちにきれいなお辞儀ができるようになりました。そのスタッフは「僕は、やるときはやるんですよ！」と笑顔で言っていました。



研修を終えて西の空の夕焼けは、甲子園優勝の真紅の優勝旗よりもきれいだっただ担当者白川は感じていたのではないだろうか。

い研修でした。後日、研修の結果が全員九十点以上で合格するという連絡がありました。これは仙台育英高校にも劣らない素晴らしいことです。

#### 仙台育英高校・野球部 須江監督の指導方法

上記の記事にもありました夏の甲子園の覇者、仙台育英高校野球部の監督の指導方法に関してインタビュー記事がありましたのでいくつか紹介いたします。皆さんの日頃の仕事において参考になるかもしれません。特に店長の皆さんには、想像力をはたらかせて考えてみましょう。

#### 「怒りにくい時代にもなつてくせ」

「僕も叱る時はありますが、選手のモチベーションを上げる存在ではないといけません。時代が求めている監督の役割は変わりました。モチベーションを上げて、あとは思考の交通整理をする」

#### 「だからこそ言葉が大切」

「でも、僕が何かを一方的に語りかけることが言葉の力ではありません。同じことを言っても誰が言うか、いつ言うか、その聞く相手がどんな精神状態か、によって効果も変わります。話を聞いてもらうには相手の心が穏やかではないといけません。優しさは想像力とい

「怒りにくい時代にもなつてくせ」  
「僕も叱る時はありますが、選手のモチベーションを上げる存在ではないといけません。時代が求めている監督の役割は変わりました。モチベーションを上げて、あとは思考の交通整理をする」

